

「忘れられんのです」震災から三年

慰霊碑前 遺族の思い変わらず

【一月十七日 神戸大NEWS NET | UNN】震災から丸三年の十七日、神戸大六甲台キャンパスにある慰霊碑には一日中、震災で亡くなった学生の家族や友人が訪れた。今年も土曜日とあって、去年より多くの人が慰霊碑の前で犠牲者の冥福を祈った。

「思い出すんじゃないんです、忘れられんのです」と話すのは、神徳史朗さん（当時Ⅱ工・三年）の父、逸郎さん。慰霊碑に史朗さんが好きだったタバコをそっと供えた。母親の久美子さんは、ずっとプレートに史朗さんの名前をなでていた。

この日は大学入試センター試験と重なった。周りには試験の合間に答え合わせなどをする受験生の姿がみられ、慰霊碑に祈る人達にちらちらと目をやっていた。

また、十六日の正午、六甲台キャンパスの震災慰霊碑前で、西塚泰美学長をはじめ、各学部長、教職員らの黙とう、献花が行われた。
（詳細はホームページ <http://www.kobe-u.ac.jp/newsnet/> に掲載）



注：神戸大学ニュースネットが張り出し特報（98年1月17日付）として神戸大学内に掲示。